

■沖縄に行くのか・行かないのか、行けるのか・行けないのか、気をもんでおられる方もおられるのではないかと思います。対面だけ、オンラインだけに比べて、ハイブリッドは、開催に携わる方々にとっては、負担増です。ご苦労様ですと申し上げることしかできませんが、実り多き大会にすることで、せめてそのご尽力に報いることができればと思います。

■今学期から、今までに教えたことのない教養科目を教えています。選択してくれた学生さんには申し訳ないですが、これでいいのか自問自答しながらやっています。新しいことへのチャレンジは、大変でもあり、楽しくもあり。まだ始まったばかりですが、後期授業が終わる頃には、意気揚々としているのか、「もうたくさん」とへこんでいるのか、お楽しみです。

■富山市を流れる神通川の近くに住んでいます。自然に恵まれた環境で、子供と一緒に河原や中洲で遊ぶこともしばしば。先日は、流木を集めて、小屋（のようなもの）を作りました。次に、その小屋に続く道を作ることになり、100mほどに渡って石を並べる作業に取り掛かりました（小屋も道も子供の発案）。子供は、すぐに飽きるかと思いきや、全くその気配はなし。石を集めて運び、道の両側に並べました。こっちが先にギブアップ気味でしたが、「やりかかったことは最後までやりましょう」という教育効果のため、最後まで付き合いました。石拾い＝スクワット、石運び＝筋トレ、ということで、コロナも吹っ飛ばぐらい、健康的な休日でした。みなさまも、引き続き感染対策を怠らず、健康に留意してお過ごしてください。

(吉川)

■オリンピックとパラリンピックがあつという間に終わり、だいぶ涼しくなってきました。皆様いかがお過ごしでしょうか？第5波が過ぎ第6波と言われる次の波は何と年末…。あつという間にコロナ禍で2年が過ぎてしまいました。行動制限や通勤中、職場内および家庭内感染に気を付けながら緊張し続けているせいもあるのですが、同時に何も進んでいないような気がして焦らされもします。

■大会参加記などオンラインだと参加者の顔が見られず、どなたが参加されておりお願いできそうな方を探すのに苦労いたしました。オンラインは手軽で海外研究者の講演などは依頼しやすいのですが、そう言った弊害も感じるところです。お忙しい中執筆いただいた先生方ありがとうございます。

■今年は学会が沖縄ということで、緊急事態宣言やまん防が出ていなければ現地開催とのこと少し不安で楽しみでもありま

す。今は選挙にかまけて忙しいかもしれませんが、政府には有効な対策を打ち出してほしいところです。

(池上)

■これを書いているのは10月半ばではありますが、大阪はまだまだ暑い。半袖です。大学の自室にはまだ冷房いれている。秋のど真ん中です。こんな日本に誰がした。マスク付けて講義していると息苦しい。映像だけの印象ですが、欧米なんかマスクして無いヒトが多い。日本人、まじめ。同調圧力に弱い。ヒトがまばらな場所でもマスク着用無印生活、本当によくやっています。

■一方、コロナウイルスも対抗策を駆使しており、ワクチンの壁を破って新しいステージにたどりついたようです。ブレイクスルー感染ですね。研究でのブレイクスルーはなかったけれど、ワクチン接種済みの私がここでコロナに感染すると人生初のブレイクスルーを成し遂げることになる、とはいかない。これウイルスががんばったの話。ウイルスやってる人たちではこの言葉あたりまねなんですかね。ウイルス賞賛しているのでしょうか。いや、break throughは善悪にかかわらず使われるような言葉なのかと考えた。contribute がそうですね。ところがNew oxford American dictionary 電子版で、break through の定義を検索すると、“a sudden, dramatic, and important discovery or development” となっておりまして、やはりこれは良い意味。ということは、「ウイルスさんよく頑張って壁を破ったね」てなほめ言葉？あるいは「人間だけががんばってんじゃねーよ、ウイルスだって必死なんだよ」という皮肉か。正しいところを英文科出身の会員同志にご教授いただきました。

■今号もよい記事があつまりました。いつも原稿を依頼する際にお願します。個人的なことをできるだけ盛り込んでくださいとその無理なお願いにお応えいただきました。研究者が語り部になったとき何が面白いて、成功にいたるまでの紆余曲折であります。今号も宝箱、心より楽しませていただきました。このような幸せな時間をくださった執筆者の皆様へ感謝申し上げます。下村さんなんか、久々のメールのやりとりで、面白そうな研究人生やってるなど感銘を受けたのでいきなり依頼、一週間ほどで原稿いただきました。しなやかだなあ。

■さて他の方の成し遂げたことでにやついているばかりではいけません。前に進まねば。青い海と空に囲まれて、沖縄で久々の対面での総会となりそうです。ukiuki。議論に花を咲かせブレイクスルーを目指すことといたしましょう。

(重吉)

時間生物学 Vol.27, No. 2 (2021) 令和3年11月1日発行

発行：日本時間生物学会 (<http://chronobiology.jp/>)

(事務局) 〒467-8603 名古屋市瑞穂区田辺通3-1

名古屋市立大学大学院薬学研究所

神経薬理学分野内 (担当 佐々木)

TEL/FAX : 052-836-3524

Email : [chronobiology.jp@gmail.com](mailto:chronobiology.jp@gmail.com)

(編集局) 〒589-8511 大阪府大阪狭山市大野東377-2

近畿大学医学部解剖学

重吉康史研究室内

TEL : 072-368-1031

Email : [shigey@med.kindai.ac.jp](mailto:shigey@med.kindai.ac.jp)

(印刷所) 名古屋大学消費生活協同組合 印刷・情報サービス部